

第55回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2014年12月28日(日) 11:00-16:20 学会センタービル

2 参加者

矢島ミ、畠山、瀧上、宮嶋、南島、川村、藤原(小尾)、小林

3 前回議事録の確認

字句の修正(一カ所)以外は原案通りに承認された

4 中教審関連・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

○中教審関連

- ・12/22に公表された高大接続部会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」について、概要を確認した。

○理数系学会・他研究団体等

- ・11/29, 30に京都大学で行われた「防災読本」研究集会について概要報告がなされた。
- ・12/12、地学教育学会の会長ら役員が文科省を訪問し、教育課程課長、教科調査官らと面会し、次期学習指導要領改訂に関する情報交換を行ったことが報告された。

○教育検討委員会関連の報告事項

- ・Future Earth 構想とESD(Education for Sustainable Development)の違いについて、情報提供がなされた。

○その他

- ・学術会議小委員会(科学と社会委員会・科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会)の検討経過について、4領域必修と科学的な判断力の育成を軸に案がまとめられつつあることが報告された。
- ・第7回日本地学オリンピックについて、参加状況、成績概要の報告があり、今後の国際大会の開催国について情報提供がなされた。
- ・第12回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2014)の最終結果について、地学分野の発表(斜面崩壊のモデル解析)が第2位になったことが報告された。

5 協議

(1) 次年度連合大会パブリックセッションについて

- ・セッション内容紹介文について、確定した文書の確認がなされた。

「地球の環境保全と未来にわたる持続性を追求するため、国際的に学术界と行政、経済界など、超学際的な協働を通して課題解決に向かうのがFuture Earthの根本的な姿勢です。課題解決への諸活動が有効に機能するには、行動者全ての思想の背景に、地球の変動の包括的な理解が欠かせないと言えます。この理解を構築するため、未来を担う全ての高校生が学ぶべき地学および地理の方法と内容が何かを議論します(招待講演のみ)。」

- ・講演者の照会及び確定について

パブリックセッションの3要素である①Future EarthやESDの視点、②地理基礎、③地学基礎の総括及び改善提案の内容、に関する講演者の依頼・確定状況について、①と②については具体的講演者が未定であることが報告された。また、社会からの地感教育への要請の視点については、産業界の他、報道関係者も講演依頼の対象として検討することを確認した。

またFuture EarthとESDは、各々別の活動となっており、両者を有機的につなぐのが本セッションの役割であることを認識した。

(2) 地学基礎アンケートについて（連合webアンケート）

アンケート文面について、アンケート対象者を地学専門の教員と想定し、大幅に簡素化して最終的な確定を行った。なお、アンケート実施期間は1月下旬から2月末日までとし、実施前に各方面に周知の連絡をすることを確認した。なお、周知の文案は統一したものとし、文案を宮嶋委員が作成することとした。

(3) 地学基礎の総括について（授業実践・改善案等）

次回小委員会にて検討を行うこととした。

(4) 地団研要望書への対応

以下の点を地団研に連絡して、最終案のとりまとめを依頼することを確認した。

- ・地理教育の必要性の観点も加える
- ・地団研の代表者が理事会にて要望の趣旨を説明することを要望する

(5) 今後の活動について

次の3点について、次回小委員会で引き続き検討することを確認した。

- ・地学基礎改善に向けての検討
- ・学習指導要領大枠へのロビー活動
- ・学習指導要領解説作成者（教科調査官）へのコンタクト

6 次回小委員会

当初の予定である1/25は諸事情により開催を延期し、メールにて各委員に別の日程を伺い、改めて調整することを確認した。